

『サハリンを忘れない』写真文集刊行及び記念写真展のお知らせ

現地で2006年から取材を続ける写真家を書き上げた、渾身のドキュメント&フォト

厳しい境遇を生きただからこそ生まれた彼女たちの明るさや強さ、優しさに惹かれ、長い時間をかけて関係を築き、製作した写真文集『サハリンを忘れない』が2月23日(金)に発売されます。また、刊行記念として、神楽坂セッションハウスギャラリーにて3月16日(金)から3月25日(日)まで写真展を開催します。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。また、書籍につきましては一般書店やインターネットからのご注文となりますが、会場でも販売いたしておりますので、よろしくお願いいたします。

後藤悠樹 写真展「サハリンを忘れない」

■会期 :2018年3月16日(金) ~ 25日(日)12:00-20:00 会期中無休

■入場料 500円

■場所:セッションハウス 2F ギャラリー <http://www.session-house.net/2f.html>

東京都新宿区矢来町 158 (東京メトロ東西線神楽坂 1 番出口徒歩 5 分)

http://www.session-house.net/map_access.html

電話 03-3266-0461

◆トークイベント 3月16日(金) 15:00~16:00、19:00~20:00

* 昼と夜、2 回行います。ご都合のよい時間帯にお越しください。

・後藤 悠樹(著者)

・パイチャゼ・スヴェトラナ (北海道大学大学院 助教 本書ロシア語版解説)

書籍情報『サハリンを忘れない ~日本人残留者たちの見果てぬ故郷、永い記憶~ 』

【2018年2月23日発売】 定価:2,500円+税

ISBN : 978-4-86647-047-4 A5・288頁(オールカラー)・並製

発行元:DU BOOKS 発売元:株式会社ディスクユニオン

サハリン、またの名を樺太。北海道の最北端の宗谷岬からサハリン最南端のクリリオン岬まで、四十三キロに位置するこの島の存在は、一般的にはあまり知られておらず、現在日本で発行される世界地図では南極大陸と共に、どこの国にも属さない空白の土地となっています。

1905年より約40年間日本の統治下にあったこの島は、1945年の夏、ソ連軍の侵攻によりその支配下となりました。その後、ほとんどの日本人が引き上げていくなか、様々な事情でこの島に残留した方々があり、その多くは家族や子供のために帰国を断念した女性でした。

ソビエト支配下となった樺太(サハリン)にたった一人残留せざるを得なかった当時13歳の松崎節子さんや、敗戦後の貧困のため、14歳の時に結婚させられて以来約60年、西海岸の小さな村に住み続ける笑顔が素敵な渡辺ハツエさん、また韓国系住民でありながら、日本から聞こえてくる雑音混じりのラジオをいつも聞いていた盲目のよしこさん…。本作ではそんなかれらを中心に、2009年、2013~2016年にかけて撮影した写真とともに、滞在中の交流やインタビューした原稿を併せて構成します。この島が日本からソビエト、そしてロシアに変わった今でも、かれらはそれぞれの文化や、家族を持ちながら生き続けます。その存在は私たちに何を問いかけてくれるのでしょうか。

著者プロフィール 後藤悠樹(ごとうはるき)

1985年生まれ。NPO法人日本サハリン協会会員。広告写真家のアシスタント、アパレルカメラマンを経て、現在写真館勤務。2006年よりライフワークとしてサハリン(樺太)の撮影を始め、定期的に長期滞在をする。2014年には北海道大学の研究者との共同プロジェクトを発足し、その成果を「サハリン残留日韓口100年にわたる家族の物語」(2016年・文:玄武岩/パイチャゼスヴェトラナ / 写真 後藤悠樹・高文研)にまとめる。

お問い合わせ DU BOOKS(ディーユーブックス) TEL:03-3511-9970

東京都千代田区九段南 3-9-14 dubooks@diskunion.co.jp